

障害者福祉現場における 若年の若手職員の育ちと揺らぎ

—福祉職員の専門性の育成の課題と可能性—

圓山 歩実

本論は、障害者福祉現場における若手職員の育ちにつき検討することを目的とするものである。中堅職員が若手職員をどうみているのかを聴取し、その中堅職員の思いに対し、一人の若手職員としての思いから問いかけるという方法を取り、若手職員がおかれるであろう職場内で生じる実践上の葛藤や不安につき検討する。一般的に、若手職員とは入職後 5 年以内の者をいうが、本論では 39 歳までの若者層で入職後 5 年以内の者(若年の若手職員とする)に焦点をあてる。

分析を進めるにあたり、まず若者が障害者福祉現場とどう関わってきたのかを整理する必要がある。この為、1970 年以降の共同作業所づくりの頃から今日までの障害者福祉現場や障害者運動と若者の関わりを先行研究から整理する。そのなかで、障害者福祉現場や障害者運動と若者の関わりが大きく変化しているのか否かを問い、それが変化しているのであれば、それはなぜかを検討した。

本論は、今日の社会福祉現場が、若者が育つことを可能にする為にいかなる準備が必要かを探ることを目的とする。その作業を行うにあたり、若年の若手層について語る中堅層の語りを通し、社会福祉現場を目指す一人の若者として、若者が主体的に参加できる職場集団はいかにあるべきかを考えた。

次に研究の方法であるが、障害者福祉現場二法人の中堅職員から得たデータを M-GTA 法により分析し、そこで得た概念の相互関係についてコードマトリックス法を用い分析した。また、実際に障害者福祉現場に参加し、その現場で職員がいかなる職場づくりを行っているのかを観察し、一人の若者として感じた疑問や葛藤を分析した。このインタビュー、実践参与の分析から、若者が障害者福祉現場を好む就職先となる為に、どのような工夫が現場側に求められているのか、さらに、若者はどのような福祉教育のなかにおかれることが必要かを考察点とした。

第 1 章では、若年の若手職員の障害者運動離れの指摘から、中堅職員やそれ以上の職員が若年の若手職員だった当時と社会的資源やシステムが整ってきているからだと考えられると結論した。しかし、今回の調査のなかで、運動は、新たな資源を創り出すことのみが運動ではないとの指摘や、障害者の権利や自分たちの権利が、今の制度や職場の状況で十分に守られているのかを考える必要があるとの指摘を受けた。この指摘を受け、現在の整いつつある社会資源や福祉現場のなかで、障害者問題と向き合う為の実践の価値観を築きあげることが運動から離れている若者たちにとって必要なことであると述べた。

第 2 章では、中堅職員が若年の若手職員の育ちをどう見ているのか、さらに、その中堅職員の目に映っている若年の若手職員の姿は、どのような背景により生み出されているのかにつきインタビューし、M-GTA 法、さらにそこで得た概念の相互関係について、コードマトリックス法に基づき分析を行った。今日の新自由主義な性格をもつ福祉政策により共同関係が危機に陥るなかで、揺らぎが困難になっていることを明らかにした。

第 3 章では、ある共同作業所に参与観察するなかで、この現場が「揺らぎ」を可能としていることを実践を通してみてきた。この現場は、自己肯定感が高まり、職員や仲間の一人ひとりの発達を保障された「集団」を大切にしていた。この集団で共に職員が育ちあうためには、ストレングスの視点から職員が他の職員の可能性を発見し、その可能性を育てあう必要があると考え、この現場はそれを実践し、「集団」で「共に働く」というスタンスを追求している職場であるとまとめた。

第 4 章ではインタビュー調査を行い、M-GTA 法を用いて抽出した概念である、「揺らぎを可能とする道程」と「揺らぎを保障する要素」についての論述を踏まえて、改めて、尾崎新の述べる「ゆらぐ」ことのできる力、「ゆらぎ」、「ゆらぎを保障する現場」の理論をもとに、若年の若手職員の揺らぎと育ちを可能にするものとは何なのかを整理した。

さらに、仲間が食事のメニューを選ぶ際に、“カレー”と“かつカレー”で悩むエピソードをもとに、「揺らぎ」は尾崎(1999)のいう「動揺、葛藤、不安、あるいは迷い、わからなさ、不全感、挫折感」だけではなく、いかに楽しく、いかに充実したものにしていくのかというものであり、これは育ちの原動力ではないかとの考えを示した。仲間とともに揺らぎ合い、そしてその揺らぎと向き合うことにより、実践や実践者としての人生に成功感や達成感を得ることができる。そして、揺らぎだけではなく、仲間や先輩職員、集団で作られた風土により、若年の若手職員は育つことで実践の中で揺らぎの出发点だと考える気づきを持つことができ、さらに喜びの揺らぎも可能となるのではないかとまとめた。